**校長　岡﨑　守夫**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 【学校像】「高い志」を持ち、「真のリーダーシップ」を発揮しながら世界で活躍する人物を輩出する学校。【生徒に育みたい力】○　基礎・基本の充実と深い学びを通じて未来を拓く力を養い、｢高い志」を持って世界に貢献できる有為な人物を育成する。○　ハイレベルな授業を通じて進路実現を可能にする高い学力を養成すると同時に、学校行事や部活動への積極的な参加を奨励し、たくましい人間力を育成する。○　知的探究心をもって自主的に学習する力を養成すると同時に、互いに協力しつつ切磋琢磨することを通じて、優れたチームワーク意識と高い自治能力を育成する。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| ○　グローバルリーダーズハイスクールとしての特色づくりのため、３つの教育目標を深化させる取組みとともに教員の授業力向上のための取組みを実践する。１　「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築⑴　グローバルに視点を置いた取組みを継続発展させる。ア　海外宿泊野外行事及びその事前学習、事後学習を通して多様性受容力を鍛え、コミュニケーション能力を高める。イ　英語教育の内容をより一層充実させる。⑵　「高い志」を涵養し持続させるための取組みを継続発展させる。ア　卒業生人材ネットワークを拡大し、卒業生による支援体制を強化する。①　大学教授、企業等で活躍する卒業生等による「卒業生講座」「学問発見講座」。　　　②　京都大学を中心とした「卒業生研究室訪問」。③　関東方面への大学見学会「東京スタディツアー」。　　　　　　　　　　　　　　　 ④　第１学年対象の「スプリングセミナー」。⑤　第２学年対象の「オータムセミナー」。イ　課題研究等を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、大学での学びにつなげる。※東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数合計120名以上（平成30年度（平成31年度入試）137名）を維持する。※高等学校卒業時の進路選択について納得している生徒の割合90％以上（平成30年度91％）を維持する。２　「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築⑴　授業重視と自学自習の意識を高める。⑵　３年間を通した育成計画「北辰プロジェクト」を充実させるとともに、それに基づいて生徒にめあてを提示する。⑶　学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。ア　リーダー育成研修を継続させる。イ　理学療法士による部活動サポート事業を継続発展させる。※１，２年生の一年間の読書量一人当たり平均10冊以上（平成30年度一人当たり平均13冊）を維持する。３　「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築⑴　学校行事を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（違いを認め共に生きる力、協調性、豊かな感性）⑵　部活動を中心に「自主自律の精神」を育成するシステムを充実させる。（健康・体力の向上）⑶　生徒会活動を中心に、生徒自らが規範意識やモラルを高めることができる取組みを実施する。※地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり平均年間1.0回以上となるようにする。４　教員の授業力向上のためのシステムの構築⑴　教科会議の充実（教科の目標設定と総括、研究授業）・相互授業見学の充実・大学等との連携の深化※授業観察の際の生徒アンケートにおける授業信頼度平均88％以上を維持する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築 | ⑴「グローバル」に視点を置いた取組みア　Brothers＆Sistersプログラム及び事前学習の充実、海外宿泊野外行事及び事後学習の充実イ　英語教育の内容のさらなる充実⑵「高い志」を涵養し持続させるための取組みア　卒業生との連携の強化による取組みの充実イ　課題研究の充実 | ⑴ア　長期留学生の受入れ、海外からの研修旅行生との交流、第１学年全員を対象とした大阪大学等の留学生との交流により、アジアを中心とした異文化理解や他国理解を深める。また、生徒の企画運営による事前学習を重ねて、宿泊野外行事へとつなげる。第２学年の宿泊野外行事においては、学校交流とともに現地日本企業等の協力による取組みを重視する。また、事前学習や現地で学んだ内容を課題研究等につなげる。イ　４技能（５領域）を総合的に育成する英語教育の確立に向け、授業内容をさらに充実させるとともに、外部検定を活用する。また、英語イマージョンプログラムを継続発展させる。⑵ア　本校卒業生の人材ネットワークを広げ、学問及び社会に対する興味・関心を高める取組みを充実させる。・卒業生講座及び学問発見講座を継続させる。また、「スプリングセミナー」等も含めて、卒業生によるキャリア教育に資する講演会や講座を実施する。・京都大学を中心に卒業生の研究室訪問を継続する。・関東方面への大学見学会を継続させる。その際の卒業生との連携を強化し、より広い視野で進路を考える場とする。イ　大学の先生等の協力を得ることによって、２年生全員を対象として実施する課題研究の質を高める。 | ⑴ア・交流する大阪大学等留学生数50名以上（平成30年度60名）・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートにおける満足度90％以上（平成30年度97％）イ・イマージョンプログラムへの参加生徒80名以上（平成30年度100名）・参加生徒のアンケートにおける満足度90％以上（平成30年度98％）⑵ア・キャリア教育に資する卒業生の講演会や講座の数８以上（平成30年度10）・卒業生の研究室訪問８か所以上（平成30年度10か所）・関東方面への大学見学会の参加生徒20名程度、支援する卒業生20名以上（平成30年度参加生徒９名、支援する卒業生30名）・各取組みに対する生徒の満足度90％以上（平成30年度学問発見講座94％、卒業生講座97％、卒業生の研究室訪問99％、関東方面への大学見学会100％）イ・大学の先生等に課題研究や課題研究につながる授業に協力していただく回数のべ20回以上（平成30年度26回） |  |
| ３「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築２「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築 | ⑴「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成ア　リーダー育成プログラムⅠの充実イ　リーダー育成プログラムⅢの充実⑵「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成ア　地域とつながるこころの育成イ　自学自習の精神の育成 | ⑴ア　各部・同好会の部長等に対して、リーダーとしての資質を高めていくプログラムを充実させる。リーダー論やコーチングの手法、人間関係トレーニング等についての講演等を実施する。イ　部活動に参加する部員を対象に、理学療法士による指導・支援を定期的に実施する。健康を自己管理する能力を高めるとともに、高い志を持ち、諸活動において良い結果を出せるよう取り組む。⑵ア　生徒に地域と連携した活動等への積極的な参加を推奨し、地域とつながるこころ、自主自律の精神のさらなる育成をめざす。イ　自学自習の精神の育成のため、担任、教科担当者、部顧問からの指導を徹底する。そのための支援として自習室を開設する。また、読書指導を推進する。 | ⑴ア・リーダー育成プログラムⅠの実施回数10回以上（平成30年度11回）・参加生徒のアンケートにおける満足度80％以上（平成30年度87％）イ・リーダー育成プログラムⅢの実施回数10回以上（平成30年度11回）・参加生徒数のべ850名以上（平成30年度878名）・支援する理学療法士のべ160名以上（平成30年度168名）・スポーツ振興センター手続き件数100件以下（平成30年度86件）⑵ア・地域と連携した活動等への参加回数生徒一人当たり平均年間1.0回以上イ・一人当たりの平均読書量年間10冊以上（平成30年度13冊） |  |
| ４教員の授業力向上のためのシステムの構築 | ⑴授業力向上のためのシステムの充実ア　教科会議の充実及び研究授業の実施イ　教員相互の授業評価の充実ウ　管理職による授業評価の充実エ　「働き方改革」の推進 | ⑴ア　大学入学共通テスト、次期学習指導要領等の研究を進め、臨機に対応する。また、主体的・対話的で深い学びを推進するための研究、実践をさらに進める。イ　バディシステムを継続実施し、互見授業により教員の授業力を向上させる。ウ　全教員の授業観察の際に、管理職によるアンケートを生徒に実施・分析し、授業アンケートとともに授業力を把握する材料とする。エ　「働き方改革」の方策を検討するための核となる組織の会議を定期的に開催する。 | ⑴ア・主体的・対話的で深い学びを推進するための研究授業年10回以上イ・互見授業教員一人当たり平均年２回以上（平成30年度2.2回）ウ・生徒からの授業信頼度88％以上（平成30年度88％）エ・組織の会議年５回以上開催 |  |